

仙台経済界

2022
5-6月号

定価 690円

★SNS活用

★コスパ重視

★趣味に生きる

Z世代を 困り込め

【対談】土井 亨衆議院議員×郡 和子仙台市長

【レポート】住宅団地の明日～岩沼市里の杜～

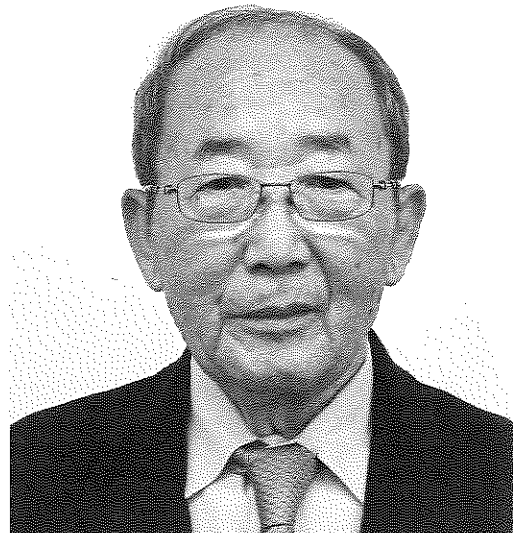
【座談会】Z世代のモデルが語る「推し活」事情

企業の衛生管理を支援、安全・安心を提供

エコ・エイドジャパン(株)
代表取締役

齋藤 弘氏

さいとう・ひろし 1947年島根県生まれ。船員経験後、消毒業者に入社。転勤により仙台に。1981年イカリ消毒仙台(株)を設立、代表取締役就任。2021年エコ・エイドジャパン(株)に社名変更、現在に至る。



有害生物防除、異物混入対策など企業の衛生管理業務を行うエコ・エイドジャパン(株)（本社、仙台市若林区）。2021年5月に社名を変更、従来の事業に加えウルトラ・フライング・インバブル発生機の販売など新たなスタートを切った。齋藤弘代表取締役に事業の内容やビジョンを聞いた。

—— 貴社の概要を。

齋藤 当社は以前、害虫駆除などを行うイカリ消毒(株)から暖簾分けし、1981年にイカリ消毒仙台(株)を設立しました。宮城、山形で事業を進めるにつれ、特に食品業界では食中毒や異物混入などのいろいろな事件があり、それに対応するために食品メーカーさんやスーパーさんと提携し衛生資材の販売や有害生物防除などの事業を展開し「食品業界のかかりつけ医」として成長してきました。加えてホテル、レストラン、ビルでメンテナンス契約を結んで衛生面で支援、安全・プラズマ安心をお届けしています。そこで新たな事業に踏み出そうと2021年5月に独立し社名をエコ・エイドジャパンとしてスタートしました。

—— 主な事業内容は。

齋藤 当社では「快適な空間を創造します」を理念に6つの事業を展開しています。製造工場での異物混入発見を人の目視に頼らず機械で判別する省人化・省力化AIシステム、HACCP・コンサルティング、防虫・防鼠用具などの販売・メンテナンス、空調設備などの洗浄・殺菌・メンテナンス、防虫・防鼠対策、工場内外の異物混入対策です。製造業にとって異物混入は命取りになりかねませんので、しっかりとサポートしています。また、企業さまに理解を深めていただくため、異物検査のワークショップやセミナーも開催しています。

—— 新しい事業としては。

齋藤 ウルトラ・フライング・インバブル(UFB)を発生する装置を販売しています。UFBは微小な泡でその大きさは100nm以下。ウイルスが約1μmなのでその10分の1の小ささです。これを水中発生させると弾けることなく、少なくとも90日間漂っているわけです。この作用を生かしてさまざまな分野で効果が期待できま

す。実際に岩手県南技術研究センターでは、養鶏にUFBの水を飲ませると出荷時の重量が7・5%以上増加、死亡率が50%以上激減し、生産性向上が期待できます。また餅をUFBの水で作ると柔らかさが持続したりカビの抑制効果も確認されているほか、トマトなどの野菜、養豚場などでその作用が実証されています。さらに微小の泡なので人の皮膚の毛穴に入り込み、汚れをかき取る作用も確認されています。岩手県では魚の養殖での実験も行う予定です。

—— 今後の抱負を。

齋藤 バイオクリン事業としてPCR検査などを行うための安全キャビネットのメンテナンスを行っていきます。また、各大学に眠っている技術や情報を生かしていきたいと思っています。東北大学青葉山キャンパスに建設中の次世代放射光施設にも微力ながら出資しています。地域活性化という点では、仙台は支店経済都市といわれますが、やはり地元発の企業として成長していくことが大事だと思っています。



牛たん焼きを
仙台名物にしたお店

味の牛たん

